

童謡 について

東洋幼稚園牛込分園長
童謡と遊戯と仕舞の研究會主幹

久門 嘉 祐

◎童謡は幼兒の生活なり

抑も童謡は生來子供の心に織り込まれて居るものであります。之に依つて生活は美化され豊富にされて居るものであります。童謡は即ち子供の生活なりと言ふも敢て過言ではないと思ふのであります。従つて幼稚園に於て童謡を教ふるに當りては先づ幼兒の生活といふことを基礎として、其上に寧ろ自然に唱歌音楽を建設すべきであらうと思ふのであります。

◎聲は心の直接表現なり

童謡になるものは勿論であります。さて其の一人一人の音聲は天惠のもので其の本質に至つては

人爲的には如何ともすることの出来ぬものであります。一人一人顔の形が固定して居る如く其人の聲として固定して居ります。彼の盲人が一聲きいたら誰といふことを決して間違ふものではありません。八年も十年も曾はなかつた人に突然會つて一聲聞いて直におゝ誰さんまことにお久しう十年振りでしたな、などと人を驚かせたといふ話はいくらもあります。それ程に其人の聲は筋の立つた動かないものであります。如斯其人々の聲の本體は一生固定されて居るようであります。けれども其聲の尖端枝葉に至つては變化自由であります。

其時々々の境遇心情に依つて直に變化するものであります。即ち聲は心と直通である聲は心の一番手つ取早い表現であります。彼の吃驚した場合に思はず知らず「アツ」呼ぶが如きであります、已ての心的状態は反射的に微妙に聲に表現さるゝものであります。

◎習慣性

人の天から恵まれた心の本質に至つては決して動くものではないのであるが其心の尖端は境遇に依つて變化をするものであります。而して其心の傾向は刹那々に消えてしまふものもあり又其傾向が長く持續するものもあります。其の持續するものは習慣性となつて性格の上に固着する様になるのであらうと思ひます。性の善惡説は暫く措いて、長い間生活する間に悪い性格も出来れば又善い性格も出来る譯であります。同時にそれに準じて或種の聲も固定される事になるのであります。

◎性格の童謠化

廣い意味に於て悪い性格から出る聲は皆童謠音樂には不適當な聲であります。此等の聲に對しては一々童謠訓練を必要とするのであります。即ち聲の訓練によつて先づ悪いといふ心の進行の眞先に對して一頓挫を與へるのであります。そうして一方に於て幼兒の生活を訓練して品性の陶冶に及ぼすのであります。恰も醫家が病原に對して注射其他の治術を以て先づ進みつゝある病者の眞先を頓挫せしめて置いて快復術を施すのと同様であります。聲の童謠化及生活の童謠化を同時に行ふを假に性格の童謠化と名付けて置きます。

◎童謠化を施すべき聲の種類

徹に入り細に互るときは限りのないことですが、今其の童謠化を施すべき聲の種類の大體を列舉せんに

◎太い聲◎細い聲◎大きな聲◎小さな聲◎汚い聲

○下品な聲○調子外の聲○鼻にかゝる聲○痰にかゝる聲○喉につかへる聲○騒がしい聲○金切聲○どら聲○垢つた聲○高い聲○低い聲○巾の廣い聲○狭い聲○散る聲○荒い聲○強い聲○弱い聲○不透明な聲○鹽枯聲○突き出すやうな聲○惡らしい聲○黄色い聲○切れぬの聲○ませた聲○あまつたれる聲○粗漏な聲○角ばつた聲○力のない聲○泣き聲

等枚舉に違がないのでありますが、而して之等音樂上から言ふて缺陷の聲は只單に聲ばかりでなく其根には其性格がくつゝいて居ることを思はねばならぬのであります。

○我が幼稚園で所謂性格の童謡を施したる特殊な一二例（特別亂暴な幼兒の一例）

それは或學者の第四の男のお子で當年七歳の武雄（假名）さん體格も上等頭腦もよし非常な元氣で元氣を通り越した亂暴者として家庭でも非常に心

配される程でありました。勿論幼稚園第一の惡戯者でありました、従つて言語音聲も非常に亂暴で到底謠になんぞまとまるものではない只亂暴に怒鳴るばかりである唱歌なんぞは大嫌といふのであります。

○此の亂暴幼兒に對する特別方法

武雄さんお早うと玄關へ走り上るとすぐに武雄さんお早うお唱歌をうたひませうとピアノの側へ氣嫌をとつて連れて行き先生と一しよにうたはせる、不相變亂暴で二三度も怒鳴ればもうピアノの側には居られないお庭へ飛び降り角力鬼ごつこ競争喧嘩といふ實に目のまはるやうな活動それだけならまだよいが片つばしから惡戯をして歩く人を突き飛ばす、玩具を引つたくる、物を投げる、人を泣かす、力があり、智慧はあり所謂餓鬼大將であり勿論毎日お守法の最善を盡して活動上の指導はして居るのであるが、又一日中幾度となく好機

會を捕へてはピアノの側へ連れて行く、そうして直接に聲を少しづつ訓練し又一方には鬼ごつこの中へ「チュンチュク雀の鬼ごっこ」と謠を入れ、プランコに謠を入れ、駈くらに謠を入れるといふ風に、盛んに活動の童謠化を施したのである、それが五ヶ月も六ヶ月もすつとつゞいた今日では、同人は不変幼稚園隨一の元氣者であるが實に於ては大變に變化して來た、即凡ての言語動作に圓滿が出來、調節が出來、美味情味が出來た、同時に童謠も道に入つてもう獨唱でも出來るやうになつた。又家庭で様子を聞いて見ると武雄はお蔭様で比頃は、元氣な不変元氣であるが前のやうな惡らしいやうな惡戯はせぬやうになり可愛い子になりましたとのことである。

◎意氣地のない子供の一例

千代子さんは六つ、一人っ子の例としてあまつたれで内張のくせに外意氣地なし、幼稚園へ來て

もお附の女中の手から離れずいつも隅っこに小さくなつてちつとして居るさながら幼稚園のお人形でした。それで唱歌は好きといふのでした。

◎此の幼児に對する方法

特に女中附のまゝピアノの側に連れて行き其の幼児の知つて居る唱歌を先生がピアノを弾いてあげると小さな意氣地のない聲で謠ふのである。毎日々々幾度もくくこうして謠はせる、段々に外の子供も呼んで一しよに謠はせる、それから一團の子供で歌遊歌舞遊戯をさせる、段々馴れて來た所で童謠鬼ごっこ童謠スベリ臺童謠プランコ童謠砂遊といふ風に、生活の童謠化を以て終始段々に活動も出氣、氣分も開けて來て今一寸で一人前の幼児として活動するやうになつた。

——終——